

ボランティア通信

Vol.39

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)

Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer-co@sophia.ac.jp

Twitter : @SophiaVolante

LINE@ : (登録時に希望する配信内容「ボランティアについて」のチェックを入れてください)

※「ボランティア」とはポルトガル語の舵取りという言葉から、学生の皆さんのボランティア活動と社会（を繋ぐ役を果たしたいという意味が込められています。



上智大学ボランティア・ビューロー (ボランティア) SOPHIA VOLUNTEER BUREAU

みちのくRenaissance2020年度活動報告

2020年度上智大学復興支援活動助成金制度に今年度も採択された“みちのくRenaissance”についての報告です。今年度は東北での活動は実現できませんでしたが、リモートのみで、沢山の企画を実現させました。現地にいけないもどかしさや苦勞もあったと思いますが、協力して下さった東北の皆さんとの距離も超えて、次年度に繋がる充実した活動を行いました。“みちのくrenaissance”の皆さん、1年間本当にお疲れ様でした！

2020年度の活動報告書を発行しました。大学公式HPからもご覧いただけます。

↓
https://www.sophia.ac.jp/jpn/studentlife/svb/svb_katudou.html
 取り組み→災害復興支援ボランティア→(2) 応募型の企画助成制度



←2020年度にシリーズで開催したオンライン勉強会の内容をまとめたブックレットが上智大学グローバルコンサーン研究所の支援のもと、完成しました！
 ゲストスピーカーの魅力がたっぷり詰まった作品です。

グローバルコンサーン研究所のサイトからご覧いただけます。

↓
<https://t.co/mZYaqAiUIG?amp=1>

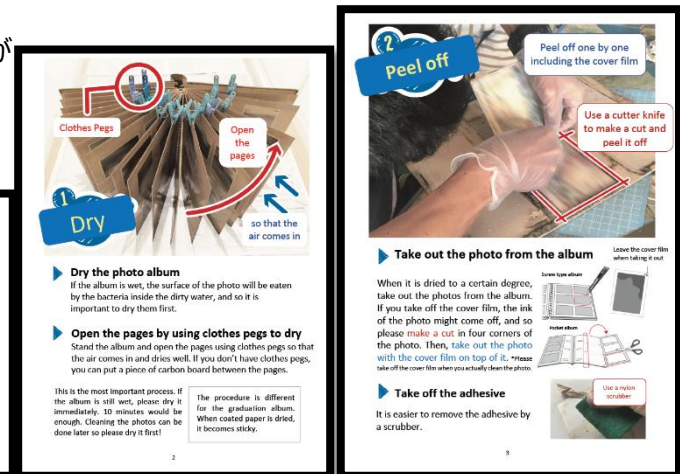
※“みちのくRenaissance” 連絡先
michinoku.renaissance@gmail.com

2020年度は残念ながら、キャンパスで洗浄会の実施ができませんでした。その間、運営メンバーの谷口知佳さん(国際教養学部国際教養学科3年)が、「真備町写真洗浄@あらいぐま岡山」さんが作成した洗浄ボランティア向けのマニュアルを英語に訳し、留学生にも参加してもらえるように、準備を整えました。海外出身の学生にもこの活動を知ってもらう事には、たくさんの意味があると考えています。

- ・災害復興支援には様々な方法があり、「大切な思い出を救うお手伝い」ができること！
- ・災害直後は心身ともに疲弊している方が多く、全てを処分してしまいたいという思いにかられる方も多いそうです。写真は洗えることをたくさんの方が知り、広める事で大切な思い出の品を捨てずにすむこと！
- ・このボランティアに参加する中で、学部や学年を超えた交流も生まれること！

キャンパスにて、たくさんの参加者と活動を再開できる日が来ることを願っています。参加者募集などはLoyola掲示板でお知らせいたします。どうぞよろしくお願い致します。

オリジナルのマニュアルの日本語部分を英訳しました。全9ページです。 →



↓この活動にご協力いただいている「課外のあらいぐま」さんについてはこちらをご覧ください。
<http://kagaiguma.blog.jp/>
<https://twitter.com/kagaiguma>

義援金募金報告

本学課外活動団体“Sophia Volunteer Network (SVN)”の義援金募金の報告です。

SVNは、2011年の東日本大震災発生を機に発足したボランティア団体です。2016年に発生した熊本地震被災者への支援や、震災の風化防止や防災意識の向上を呼び掛けるための「防災WEEK」企画を2014年から行っています。

本来であれば、今年の春休みと夏休みに熊本にて災害復興支援活動をする予定でしたが、コロナの影響で活動は叶いませんでした。

また、2020年度も「防災WEEK」のイベントの一環として、上智の皆さんに募金の呼びかけをしました。例年であれば、期間中にキャンパス内で募金箱を持ち、通りかかった学生や教職員に募金を呼びかけたり、SVNメンバー自身も被災地に想いを寄せて積極的に募金に協力できるはずが、今回はオンライン形式での開催となったため、思い通りの形では進められませんでした。

そこで、SVNとして豪雨被災地に義援金を送ることで、少しでも復興の役に立ちたいという思いから、「日本赤十字『令和2年7月豪雨災害義援金』」へ寄付(48名:計25,000円)をお送りしました。

現地での支援や対面での活動ができない中でも、「何か自分たちができることはないか?」と考え、実行に移すSVNメンバーの思いは、きっと被災地の皆さんに届いていると思います。

【日本赤十字「令和2年7月豪雨災害義援金」】

<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/20200207/>

～写真洗浄ボランティア

「英語版洗浄マニュアル」が完成しました～

2019年7月から2020年2月までキャンパスで7回の写真洗浄会を行いました。この写真洗浄会は、東日本大震災の頃から写真洗浄ボランティアを行っている「課外のあらいぐま」さんから洗浄方法をご指導いただき、学生とボランティア・ビューローで運営をしてきました。

東京にいながらできる支援活動として、岡山県倉敷市真備町(2018年西日本豪雨)や神奈川県川崎市(2019年台風19号)で被災した写真をお預かりして洗浄しました。



オンラインで南三陸町と上智大生をつなぐプロジェクト活動報告③

ボランティア通信Vol.38 (2021年2月1日発行) で報告したオンラインで“南三陸町と上智大生をつなぐプロジェクト” 第1弾、第2弾に続き、今回は、第3弾と第4弾 (最終回) の報告をお届けします。



※このプロジェクトは、オンラインで南三陸町を「知る・学ぶ」ことを目的とした全4回のイベントです。南三陸から得た学びを参加者が各自の地域まで還元して考える機会とすることを目的としています。一般社団法人南三陸町観光協会のご協力をいただき、上智大学の学生7名で企画運営をしています。

Instagram@minamisanriku_sophia 協力：一社団法人 南三陸町観光協会

第3弾「働き方と暮らし」では、ワーケーションモニタープログラムを企画された南三陸町観光協会の及川和人さん、ワーケーションモニタープログラムに参加されたノマドワーカーの対木理恵さんをお招きしました。

対談

対談を通してお二人に南三陸町の過疎化の現状と現在の取り組みであるワーケーションモニタープログラムの話を中心にお話を伺いました。**地方が抱えている課題と新しい働き方について知ると共に、南三陸町の可能性について理解するよい機会になりました。**

参加者からは「**自然との共生の大切さ、より引きつけられるような地方の魅力の作り方を学びました。**そして本日をきっかけとして、周りの人にもっと広めていきたいと思いました!」、「**ワーケーションプログラム、ぜひ社会人になったら参加したい**と思いました!」等の声が寄せられました。



※ワーケーションについて

ワーケーションという言葉の由来は、「ワーク (仕事) +バケーション (休暇) =ワーケーション」です。つまり、観光地や帰省先など、自宅以外の休暇先で、リモートワークをする過ごし方のことです。休暇型と業務型の区別があり、特に業務型の一つには、地域課題解決型として、地域関係者と交流を通じて地域課題の解決策を共に考えるものがあります。

グループワーク

グループワークでは対談内容を踏まえて以下の3つの議題について考えてもらいました。

- ①過疎化の課題にどのようにアプローチするか。
- ②社会人になった自分を想定し、新しい働き方・暮らし方をどう考えるか。
- ③自分は将来、自分の働き方・暮らし方をどう工夫できるか。

及川さん、対木さんには各グループを回っていただき学生の質問に答えていただきました。対談を通じて参加者自身が感じたことを他の参加者と考え、話し合う有意義な時間になりました。

「①過疎化の課題にどのようにアプローチするか」について各グループから発表された意見の一部をご紹介します。

- ・移住者を増やす。←定住化の前のお試し体験が必要。“ふるさとワーキングホリデー”や、大学生向けの第一次産業インターンシップなどをきっかけにもらう。
- ・その土地の方の生業を体験でき、生き生きとした人の力を知る事ができれば、より地方への関心がわく。
- ・東京で物産展などを開催して、東京にいる段階から地方の魅力を知ってもらう。
- ・現在は食糧難が将来の課題となっているので、第一次産業が豊かな事は大きな特徴である。

参加者の声

「自分が将来どこに住み、どのような職業に就きたいかということすら明確にならない中で、及川さんと対木さんのお仕事の内容や働き方についてお話を聞くことができたというのが、非常に有意義な時間でした。新型コロナウイルスの影響でオンライン化が進んだことも踏まえ、**今後はデジタル機器を駆使しつつも人のつながりを大切に生活していきたい**と強く感じました。また、過疎化の問題について考えた時に、以前であれば**過疎化はネガティブなことであり、人を増やすことが重要だと短絡的に考えてしまっていました**が、『**過疎化力**』というワードを聞き、**自然の広大さといった魅力を打ち出せるというポジティブな面も大いにあると知ることができた**のもためになりました。」

「普段お話を聞けない方々からのお話を聞けてとても充実していました。**様々な技術革新やグローバル化が進んでいるからこそ、暮らし方も働き方も一つの枠にとらわれることなく、自分が好きな・やりやすい方法でできるのだ**と考え方を変えることができました。」

「**来年度に就活を控えた自分自身の働き方・暮らし方を考えていききっかけになった**と思います。また、はじめましての方々とお話すること、お話を聞くことは自分の視野を広げるためにも大切だと改めて感じました。ありがとうございました。」

学生プロジェクト企画担当者より

コロナ禍によって多くの人がリモートワークを強いられ、社員が一同に集まって決められた時間で働くという従来の働き方が大きく見直されるようになりました。**この働き方改革は「過疎化」という、現在南三陸町が抱えている大きな課題の解決への糸口になるのではないかと**考え、今回の企画を考案しました。

このプログラムを通して南三陸の過疎化の現状と現在の取り組みについて聞き、南三陸を知ると共に、過疎化へのアプローチ方法と自身の将来の働き方と暮らしを考える良い機会になれば幸いです。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

企画担当 御前 知里(経済学部経営学科2年)

以上、第1弾から第3弾までは、上智大学の学生から参加者を募り、それぞれのテーマについて、「知り、学ぶ」イベントを開催してまいりました。

学年や学部の垣根を超えて、一つのテーマについて話し合いをすることで、様々な刺激を受けていただけたと思います。

延べ34名の学生の皆さんに参加をいただき、有意義な企画となりました。



オンラインで南三陸町と上智大生をつなぐプロジェクト活動報告④

第4弾「南三陸の食」は、

「南三陸町×上智大学オンラインイベント」全4回シリーズ企画の最終回として2月20日に開催されました。オンラインという環境を生かして、全国の参加者と南三陸町の皆さんを繋いできたこの企画。

まとめとなるこのイベントは、YouTubeライブで開催しました。「五感を通して南三陸の土地と人の魅力を伝えたい」という思いから、「食」をテーマに選びました。

イベントの様子はこちらから：

<https://youtu.be/nQD3EiidENw> 協力：一般社団法人 南三陸町観光協会

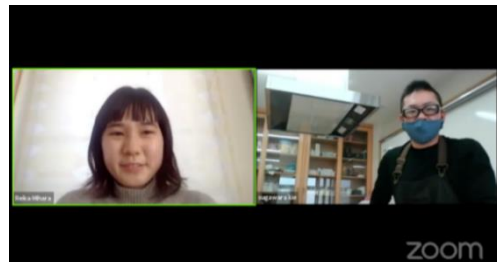
ライブインタビュー【銀鮭養殖とは？】

南三陸町は、銀鮭養殖発祥の地です。南三陸町で銀鮭養殖漁師・料理人として活躍されている佐藤将人さんをお招きし、銀鮭養殖についてお話を伺いました。

生産から調理までに携わるお立場から、銀鮭を始め豊かな自然に育まれた南三陸の海の幸・山の幸を美味しく食卓に届けたい、という思いを語っていただきました。「**食材に携わっている人の熱い思い**」そして「**自然と人との共存共栄**」が南三陸の魅力、というお話が印象的でした。

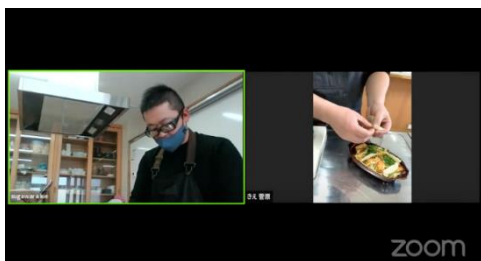
ABOUT US
南三陸町×上智大学オンラインイベント

【第1弾】地域の防災	2020年12月20日
【第2弾】持続可能な産業	2021年 1月16日
【第3弾】働き方と暮らし	2021年 2月10日
【第4弾】南三陸の食	2021年 2月20日



ライブクッキング【銀鮭の味噌マヨバターちゃんちゃん焼き】

佐藤さん考案のレシピ「銀鮭の味噌マヨバターちゃんちゃん焼き」の作り方を生配信で教えていただきました。インタビューで生産にかける熱い思いを伺った後だからこそ、銀鮭がいっそう味わい深く感じられました。体も心も温まるクッキングになりました。



←完成した「銀鮭の味噌マヨバターちゃんちゃん焼き」の画像 (視聴者提供)

※銀鮭フレーク、厚揚げ豆腐、キャベツ等好みの野菜、みそ、マヨネーズ、みりん、料理酒、すりおろしにんにく、バターがあれば手軽にできます。ぜひ先にご紹介したYou Tubeをご覧ください、料理も楽しんでください。

わたす日本橋からのビデオレポート【南三陸での出会いから生まれた“人”のつながり】

イベント後半には、東京・日本橋で東北の情報発信拠点としての取り組みを行なっている「わたす日本橋」からのビデオレポートを上映しました。

設立メンバーである宮崎さち子さん（三井不動産株式会社）へのインタビューでは、東日本大震災後に南三陸で生まれた出会いの輪が、地域と時間を超えて広がってきた経緯を伺いました。「南三陸の魅力は『人』」という宮崎さんの言葉には、2011年からこれまで繋がってきた心と心の交流が現れていました。

※ わたす日本橋

南三陸との出会いをきっかけに、東北の情報と食を発信し交流する場として、ダイニングゾーンの他に、物販や展示物が見学できるゾーンがあります。

<https://www.watasu.net/>



講師からのメッセージムービー上映

このイベントシリーズでは、毎回南三陸に関わる方を講師としてお招きしてきました。皆様から、この企画に参加した学生の背中を押してくれるような温かいメッセージを頂きました。

お招きした講師の皆様

第1弾「地域の防災」：西條美幸さん（南三陸町観光協会）

第2弾「持続可能な産業」：佐藤太一さん（株式会社佐久）

太齋彰浩さん（一般社団法人サステナビリティセンター）

第3弾「働き方と暮らし」：及川和人さん（南三陸町観光協会）・対木理恵さん（海外・国内ノマドワーカー）

参加者の声

YouTubeライブとして開催した今回のイベントには、上智大生のみならず、一般の方にも幅広くご視聴頂きました。視聴者アンケートから、このような声をいただきました。

「たくさん南三陸の魅力を知ることができ、訪れる日が益々楽しみになった。」

「南三陸が身近になった。」

「元々、南三陸の震災復興に携わっていて、何度も現地を訪れた事があるがコロナの影響で1年以上行けていない。そんな中、『南三陸の魅力』をオンラインで経験できるのはとても有意義だった。」

学生プロジェクト企画担当者より

今回のイベントでは、銀鮭を入り口として南三陸の魅力を掘り下げました。1時間半のイベントを通じて、南三陸に息づく「人の魅力」を少しでも多くの方に伝えることができたのなら嬉しく思います。

この企画では、全4回のイベントを通じて様々な切り口から南三陸を知る機会を作ってきました。**その全てを振り返ると、南三陸の皆様のお言葉や笑顔がいつも輝いていました。そうした皆様とイベントに参加した学生との出会いを、今後に繋げ、深め、そして広げていければと思います。**一日も早く、南三陸を訪れることができる日が来ることを願っています。

講師の皆様、南三陸町観光協会の皆様、プログラムの参加者、そしてこの企画を通して出会った全ての方に感謝申し上げます。

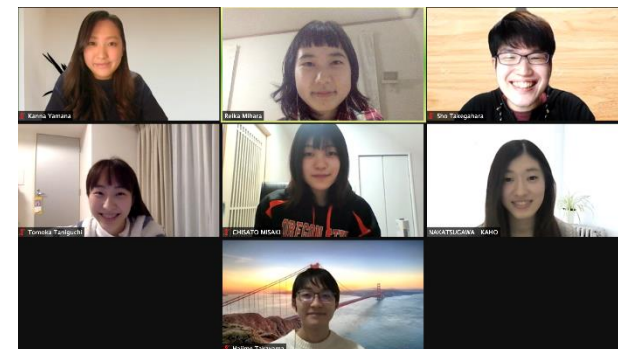
企画担当 三原 黎香（国際教養学部国際教養学科2年）

▼今回の企画に際し、お世話になった南三陸町観光協会菅原さんよりコメントを頂きました。

今回は南三陸町に関するオンラインイベントを企画、実施していただきありがとうございました。ここ数年、上智大学の学生皆様には研修旅行でご来訪いただいておりますが、今年は現地研修とは違った方法で南三陸を知っていただく機会となりました。プロジェクトメンバー皆さんの「南三陸の魅力を伝えたい」という情熱と、綿密に練られた企画によって全4回とも大変素晴らしい内容でした。南三陸の「森 里 海 ひと」を通して何かしら考えるきっかけになっていただけたら幸いです。いつの日か南三陸の美味しい食を味わいに、震災を乗り越えた逞しい人たちに会いにいらしてください。お待ちしております。

プロジェクトチームメンバー（五十音順）

- | | |
|--------|----------------|
| 高山 創 | 理工学部情報理工学科2年 |
| 竹ヶ原 将 | 法学部地球環境法学科2年 |
| 谷口 知佳 | 国際教養学部国際教養学科3年 |
| 中津川 夏帆 | 外国語学部英語学科2年 |
| 御前 知里 | 経済学部経営学科2年 |
| 三原 黎香 | 国際教養学部国際教養学科2年 |
| 山名 栞渚 | 法学部国際関係法学科2年 |



～オンラインで南三陸町と上智大生を繋ぐプロジェクトチームの皆さん、大変お疲れ様でした～